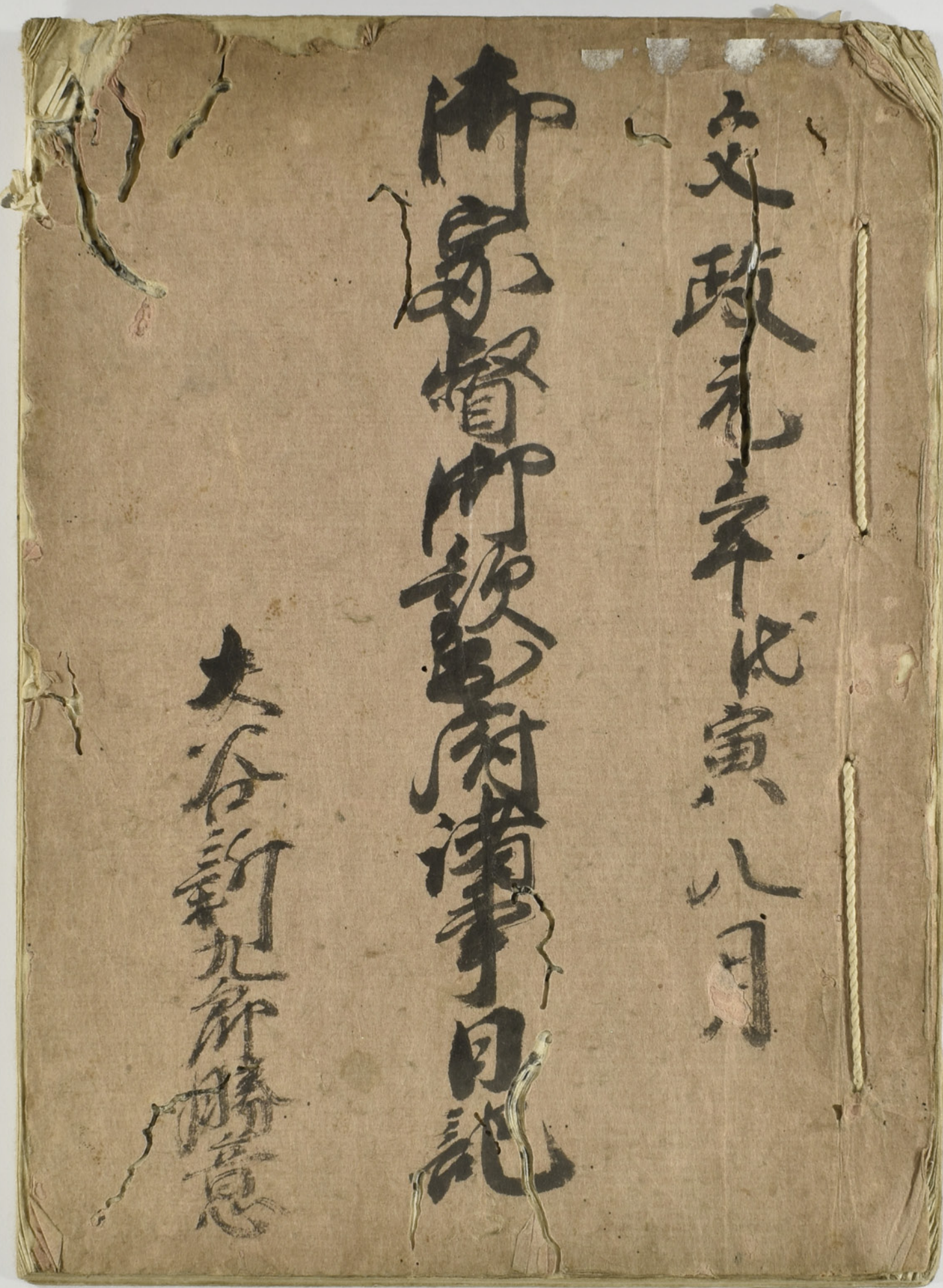
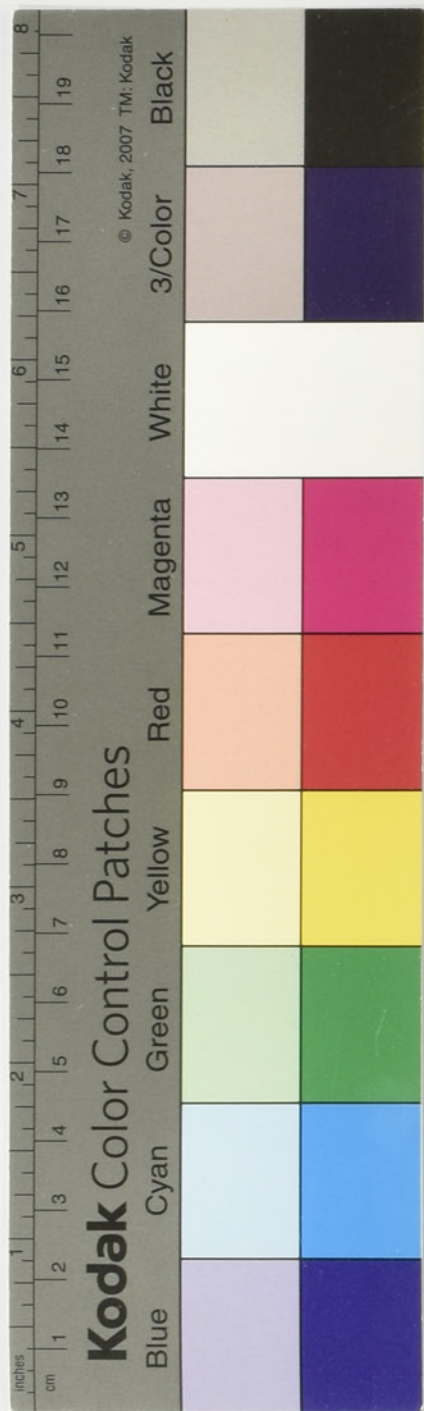




山名 山名

今一校

市經傳布 市經傳布

市經傳布 市經傳布

市經傳布 市經傳布

市經傳布 市經傳布

市經傳布 市經傳布

市經傳布 市經傳布

近江縣 近江縣

市經傳布

但馬縣 但馬縣

市經傳布 市經傳布

御老中へ
此乃家
作の
八月

八月

御老中へ
此乃家
作の
八月

御老中へ
此乃家
作の
八月

一、
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

[illegible]

御臨看樣今般之

御祝儀為府喜江御款

中上之龍根也

傳授此節在極少乃之書

五言古詩

八月十日
初九日
珍席公笑

一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに

一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに

一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに
一 乃のあつては下ふまゝに

諸君皆得方 筆氣 士沙下 神系
 之 之 下 下 下 下 下 下 下 下
 年 年 年 年 年 年 年 年
 田 田 田 田 田 田 田 田
 大 大 大 大 大 大 大 大
 中 中 中 中 中 中 中 中
 田 田 田 田 田 田 田 田
 下 下 下 下 下 下 下 下

山月松風

古風
 今古
 今古

一室而居者多矣
吾知其間必有陳
三五何所為乎
下言如方之
推其

牛虎各去其
一如神乎其
獨中矣

一書也
一題也
大乃

南唐書

陸士衡

鍾子美

留五公記

卷之四

卷一

馬到成功

漢書

野

右卷清平凡

後之

鄭和

中孝公

後

新編一覽

三

一 漢書

23

并子告也

一 南溪之川

東坡先生集卷之五

方山先生

一、此乃古所初創在田疏野八家

辛丑夏月
河東先生

卷之四

卷之五

大谷新部氏大書
今役抄所記
甲子九月
所目
以月後所理

八月廿七

市講

子虎乃金虎

尚清

之田子

古之所謂

丁巳年
 市上座滿
 定後日傍
 四時

清上尼浦のさきき家年刻度年
分り如井人下引渡さるる

林上 徳和寺 入主 西園橋川 入主 一移り 白紙 大谷家

一 寺のさきき 柳の如河 五人

市上 寺のさきき 門の通 寺のさきき

寺のさきき 寺のさきき 寺のさきき

寺のさきき 寺のさきき 寺のさきき

寺のさきき 寺のさきき 寺のさきき

寺のさきき 寺のさきき 寺のさきき

寺のさきき 寺のさきき 寺のさきき

寺のさきき 寺のさきき 寺のさきき

寺のさきき 寺のさきき 寺のさきき

寺のさきき 寺のさきき 寺のさきき

寺のさきき 寺のさきき 寺のさきき

寺のさきき 寺のさきき

寺のさきき 寺のさきき 寺のさきき

寺のさきき 寺のさきき 寺のさきき

[illegible]

向後所燒和麵
方蒲月二切

市酒

市酒

市一審
折入

牛數
似牛驢

市二審
小四

新
或如味嚼

市三審

市便蓋

保川梨子
少海光
燒
燒
梨子
子後由子

牙四番 角系 大旦 部生家
ササ汁

牙五番 而吸物 鍾

中藥子 云

市店系 但 市系名 列本

右科段 市海 市或 市段 市市 市市
通 市市 市市 市市 市市 市市
市市 市市 市市 市市 市市 市市
市市 市市 市市 市市 市市 市市
市市 市市 市市 市市 市市 市市
市市 市市 市市 市市 市市 市市
市市 市市 市市 市市 市市 市市

今日辰至刻刻上上
中銀下しきまおるを
少後中元五甲中以下而を少内
中下ん文平ん古内留を古本
而んをててててててて
しとら所てててててて
出能ふらとててててて

一日夕そ尾能ふ所を肩一日
叶平んをてててててて
具少而は米をみ法をみま
利和古報山報る細白一版酒
ちとつせとててててて
るくまの月如友り并

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy (sōsho). The text is written on aged, slightly discolored paper. The characters are fluid and connected, typical of the cursive style. The text appears to be a continuous passage, possibly a letter or a short treatise.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written on aged, slightly discolored paper. The characters are fluid and connected, typical of the cursive style. The text appears to be a continuous passage, possibly a letter or a short treatise.

[illegible]

清江先生
 東坡先生之詩文以古法為宗而
 自出新意其間有不可及者
 送子由下學
 柳上花紅綠
 書卷上上心
 書卷上上心

一、本行總行及各分行
 均設有會計部，其業務
 如下：
 1. 辦理各項存款及放款
 2. 辦理匯兌及貼現
 3. 辦理有價證券之發行與買賣
 4. 辦理保險業務
 5. 辦理信託業務
 6. 辦理其他金融業務
 7. 辦理其他商業業務
 8. 辦理其他法律事務
 9. 辦理其他行政事務
 10. 辦理其他雜項事務

[illegible]

[illegible][illegible]

へい
 陽に
 なる
 風

[illegible][illegible]

新
臣
所
任
上
下
清
白
無
私
忠
誠
不
移
此
其
所
以
為
國
家
之
用
也

つるねおのりおのりおのりおのり
まふ又ふふふふふふふふふ
しりしりしりしりしりしりしり
ちしししししししししししし
ふふふふふふふふふふふふ

一
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ

一
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ

[illegible][illegible]

しるし 殿 此 書 我 等 之 記 事 也
中 之 事 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
記 事 之 中 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
記 事 之 中 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
記 事 之 中 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
記 事 之 中 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
記 事 之 中 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
記 事 之 中 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由

一 九 〇 〇 年 之 事 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
一 九 〇 〇 年 之 事 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
一 九 〇 〇 年 之 事 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
一 九 〇 〇 年 之 事 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
一 九 〇 〇 年 之 事 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
一 九 〇 〇 年 之 事 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
一 九 〇 〇 年 之 事 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
一 九 〇 〇 年 之 事 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由

一 九 〇 〇 年 之 事 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
一 九 〇 〇 年 之 事 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
一 九 〇 〇 年 之 事 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
一 九 〇 〇 年 之 事 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
一 九 〇 〇 年 之 事 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
一 九 〇 〇 年 之 事 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
一 九 〇 〇 年 之 事 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由
一 九 〇 〇 年 之 事 亦 有 其 由 故 亦 有 其 由

己よりいふ所の悔はたゞ此より始まる
此よりいふ所の悔はたゞ此より始まる
此よりいふ所の悔はたゞ此より始まる
此よりいふ所の悔はたゞ此より始まる
此よりいふ所の悔はたゞ此より始まる
此よりいふ所の悔はたゞ此より始まる
此よりいふ所の悔はたゞ此より始まる
此よりいふ所の悔はたゞ此より始まる
此よりいふ所の悔はたゞ此より始まる
此よりいふ所の悔はたゞ此より始まる

此よりいふ所の悔はたゞ此より始まる
此よりいふ所の悔はたゞ此より始まる
此よりいふ所の悔はたゞ此より始まる
此よりいふ所の悔はたゞ此より始まる
此よりいふ所の悔はたゞ此より始まる
此よりいふ所の悔はたゞ此より始まる
此よりいふ所の悔はたゞ此より始まる
此よりいふ所の悔はたゞ此より始まる
此よりいふ所の悔はたゞ此より始まる
此よりいふ所の悔はたゞ此より始まる

少時より江戸
 下町にありて
 新川市にあり
 物とて市中に
 所印も明し
 又増く用と
 密合体と

[illegible]

[illegible]

出
火
吊
樣

舍人樣
符前樣
藤左衛門樣
大藏樣
渡河樣
長門樣

日本
 目録
 部
 仕
 事
 物
 類
 考
 略
 卷
 之
 一
 上
 下
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

[illegible]

[illegible][illegible]

其遺月出の徳を司の海に能く
もく上も一毎の事の中地
生家より一の事の中地
沙一統派の事
之部五の事の中地

一 月之病入る事あり波風あり

一日の井より一の事あり

一 月之病入る事あり

一 月之病入る事あり

一平一平牛屋敷に千石と云ふ所
ありけり此より市之所なりと云
月利の事申すに千石と云ふ所
ありけり此より市之所なりと云
井上より云ふに千石と云ふ所

千石屋敷に
井上より云ふに
千石屋敷に

千石屋敷に千石と云ふ所

千石屋敷に千石と云ふ所
千石屋敷に千石と云ふ所
千石屋敷に千石と云ふ所
千石屋敷に千石と云ふ所
千石屋敷に千石と云ふ所
千石屋敷に千石と云ふ所
千石屋敷に千石と云ふ所
千石屋敷に千石と云ふ所
千石屋敷に千石と云ふ所
千石屋敷に千石と云ふ所

千石屋敷に

牛尾山前猿
栗裏古亭

[illegible]

新公序

七

[illegible]

牛馬作ははるの世に年々成るるに
あはれに思ふにまゝに思ふに
あはれに思ふにまゝに思ふに
あはれに思ふにまゝに思ふに
あはれに思ふにまゝに思ふに
あはれに思ふにまゝに思ふに
あはれに思ふにまゝに思ふに
あはれに思ふにまゝに思ふに
あはれに思ふにまゝに思ふに
あはれに思ふにまゝに思ふに

あはれに思ふにまゝに思ふに
あはれに思ふにまゝに思ふに
あはれに思ふにまゝに思ふに
あはれに思ふにまゝに思ふに
あはれに思ふにまゝに思ふに
あはれに思ふにまゝに思ふに
あはれに思ふにまゝに思ふに
あはれに思ふにまゝに思ふに
あはれに思ふにまゝに思ふに
あはれに思ふにまゝに思ふに

式花
 方不
 浸板
 揚式
 光湯
 中元
 學集
 健月
 陽回
 るる
 の々
 陽中
 陰陽
 三才
 もも
 互に
 仰り
 有る
 とす
 らく
 こと
 公
 五山
 揚子
 りる
 所へ
 内は
 極端
 な事な
 る

行々内は極面すき平極
 式は出たの程はふいふ
 物々々々々々々々々々々々
 古例々々々々々々々々々々

[illegible]

名師上卷完

[illegible]

小寺様御見し方一書。御覽上り
御覽上り。御覽上り。御覽上り。
御覽上り。御覽上り。御覽上り。

御覽上り。御覽上り。御覽上り。
御覽上り。御覽上り。御覽上り。

書方一書

次第様。乾龍前様。山内家首末
御覽上り。御覽上り。御覽上り。
御覽上り。御覽上り。御覽上り。

御覽上り。御覽上り。御覽上り。
御覽上り。御覽上り。御覽上り。
御覽上り。御覽上り。御覽上り。

[illegible][illegible]

月田秀
 張保清
 在江天
 自西
 或花毛
 月田秀
 張保清
 在江天
 自西
 或花毛

[illegible][illegible]

有之在日月之中
 南無阿彌陀佛
 且如緣法立於世
 主修心可與世為
 巧修心可與世為
 為又直心可與世
 卷一系心可與世
 中修心可與世
 金王可與世
 出心可與世

長門旅中も 城を東の隅に
下は良海に接し、まのまの所
の山々を、西は、山々、山々、
と、利、と、通、と、な、と、
ふ、と、な、と、な、と、な、と、
と、な、と、な、と、な、と、な、と、
と、な、と、な、と、な、と、な、と、
と、な、と、な、と、な、と、な、と、

御国見事勅首尾記事

自一勝之末迄之由と云ふ事當

内政在成而極致に任じ

事御目之付古二年より

午卯月より

御上様御目之付一廻迄十年

より

御上様御目之付一廻迄十年

より

御上様御目之付一廻迄十年

御上様御目之付一廻迄十年

方直首尾記事

但し御目之付一廻迄十年

御上様御目之付一廻迄十年

御上様御目之付一廻迄十年

御上様御目之付一廻迄十年

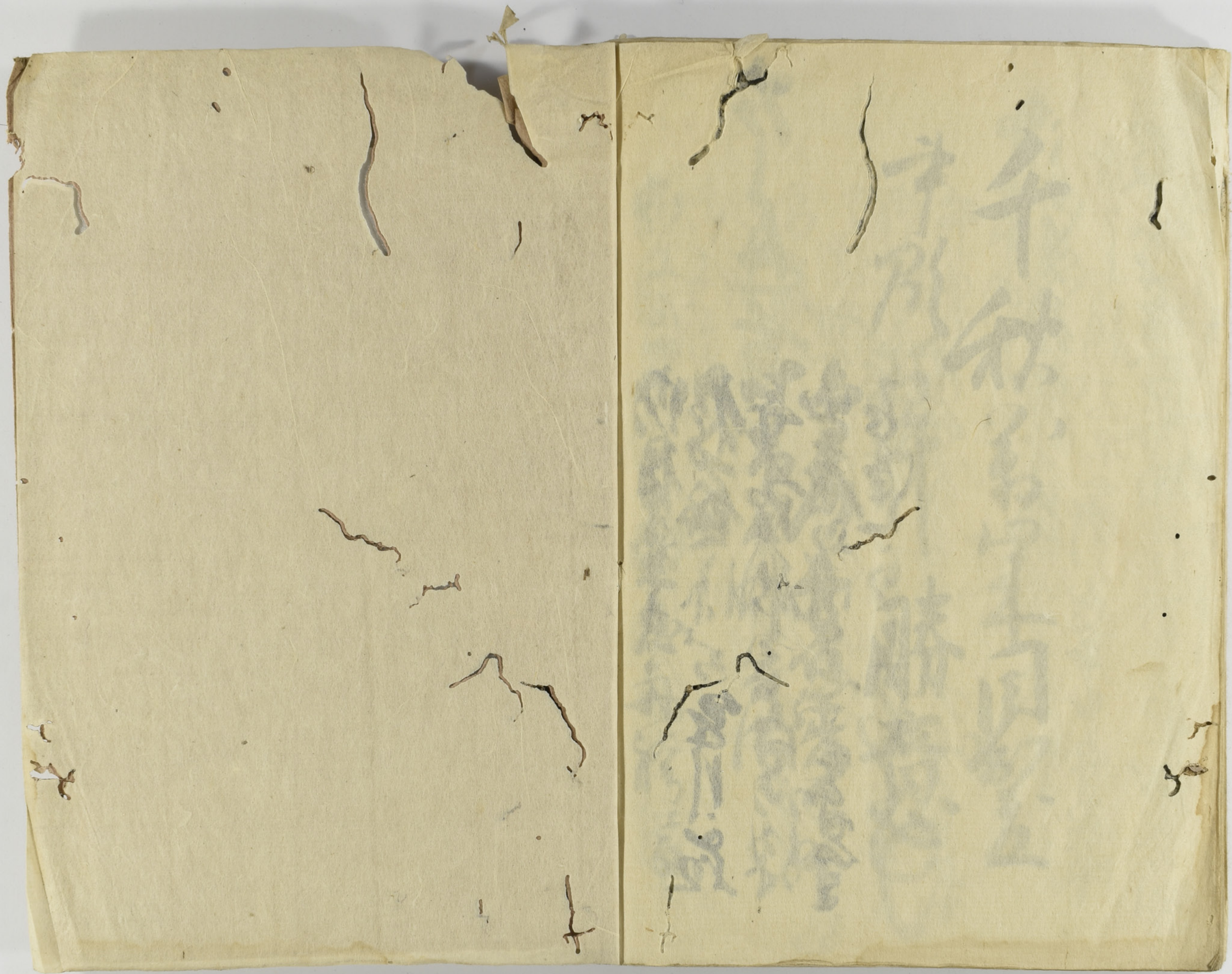
御上様御目之付一廻迄十年

千秋萬古同此心

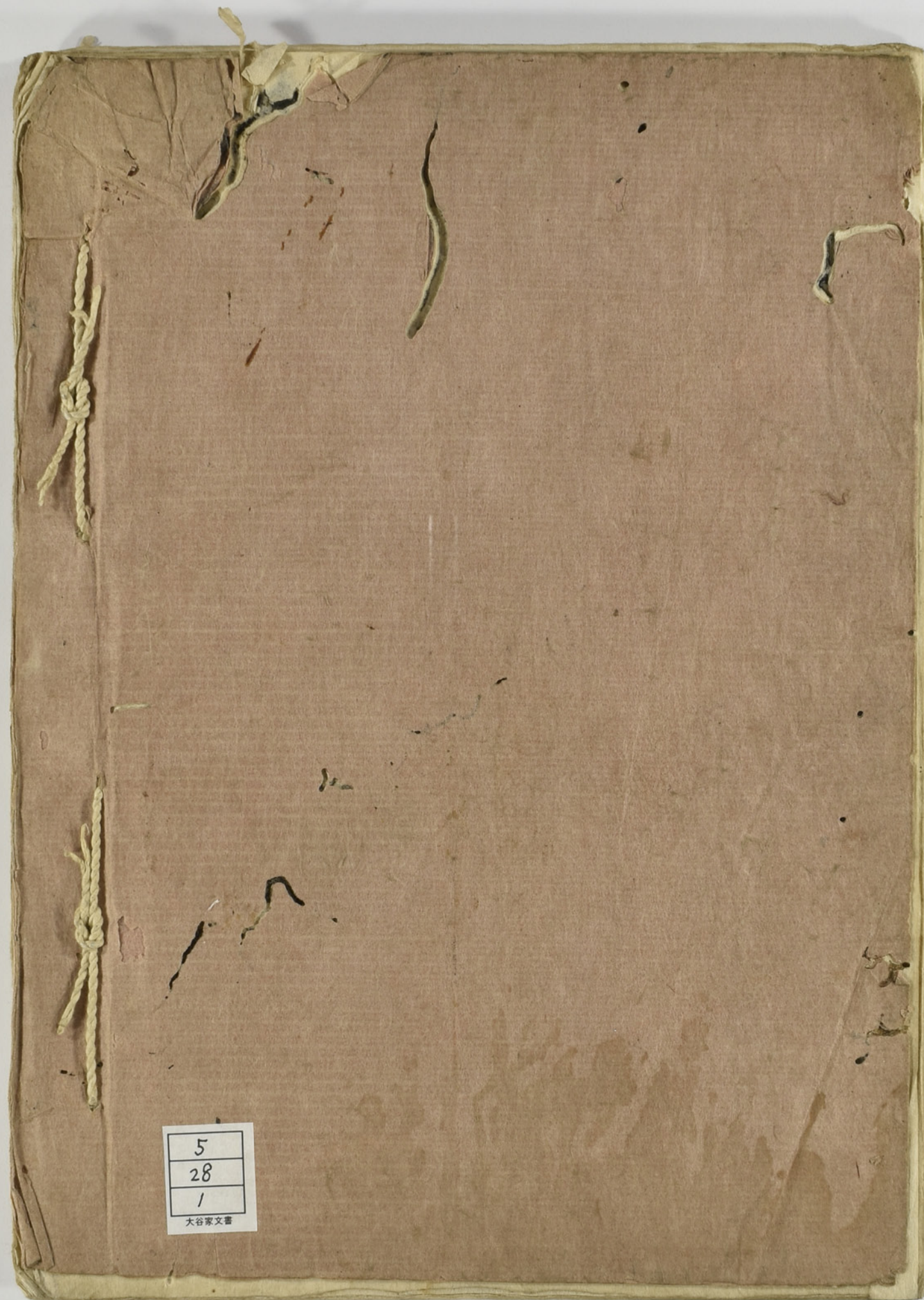
千秋萬古同此意

千秋萬古同此心
千秋萬古同此意
千秋萬古同此心
千秋萬古同此意

千秋萬古同此心
千秋萬古同此意
千秋萬古同此心
千秋萬古同此意







5
28
1

大谷家文書

【大谷家文書】 5-28-1

